第20回 MQI活動発表大会終了

H27年12月5日（土）

H27年度
MQI統一テーマ

視点を変える

院内参加者　135　名　・　外部参加者　38　名

みみより MQI

発行　（公財）東京都医療保健協会
練馬総合病院　MQI推進委員会
〒176-8530　練馬区旭丘1-24-1
TEL03-5988-2200（代）

第20回MQI発表大会を終えて

理事長・病院長　　飯田　修平

「継続は力なり」といいます。20年間MQI活動を継続したことは大変喜ばしいことです。社会情勢、医療情勢の変化、制度の変化、職員の異動等々を乗り越えてきました。推進委員をはじめとする職員の協力に感謝いたします。しかし、成果が出ているにしても、継続するだけでは、意義があまりありません。“継続的改善・継続的質向上の努力”が重要です。

昨年も、本年も、審査委員及び、招待者の温かく又厳しいご指摘を踏まえ、その原因、対策を検討しています。MQIをMQIする（MQI^2）ことを言い続けて10年以上経過しています。推進委員も、チームメンバーも基本から再検討してください。

わたくし自身も、TQMとはなにか、MQI^{2}がなぜできないのかを考えています。これこそ、病院が一丸となって取り組まなければ実現できません。12月の経営人材育成研修でTQM/MQIを2日間講義・演習しました。受講生との質疑から、多くを考えさせられました。来年度の飛躍を期待します。

第20回MQI活動発表大会を終えて

MQI推進委員会委員長　　柳川　達生

20回目の節目となる医療の質向上活動（MQI）は、12月5日に開催しました。今年の主題は「視点を変える」です。主題に則ったテーマで8チームが発表しました。40名あまりの外部医療機関、産業界の方々にもご参加いただき活発な質疑が行われ盛会裏に閉会しました。

MQI活動を20年継続してきたことは誇りであると胸をはりたいところです。しかし今年の活動を見ておりますと進捗管理を含めた推進体制に問題がありました。ただ土壇場では多くのチームが粘りを見せてくれました。粘れたのは業務を改善したいという思いです。この思いがあるからこそ粘れます。21年目の活動では、もう少し早い段階から力を発揮できるように推進していきます。

平成27年度MQI発表大会に参加して

看護部長　　佐藤　松子

記念すべき第20回目の発表を無事に終える事が出来ました。看護部としては、優秀賞には辿り着きませんでしたが、メンバーは毎週集まり活動していました。その時間だけでは足りずに担当毎に集まったりしていました。MQIメンバーとして活動するには、各部署のサポートが不可欠です。

従って、職員全員がメンバーという事になります。それがMQIの、もう一つの効果ではないでしょうか。審査をするのは、みんなが頑張っているのを知っているだけに、とても気が重いものです。

出来ることなら全チームに優秀賞をあげたい気持ちでした。でも、実際に優秀賞に選ばれたチームは、それに値する内容でした。1回目からの報文集を読みましたら、歴史の重みを感じます。今では当たり前の事が、昔の活動によって成り立っていることが良く分かります。

今後も30回、40回と続くように努力していきたいと思います。推進委員、活動メンバー及び支援して下さった部署の方々お疲れ様でした。

★　各チームからのコメント　★

活動主体部署	放射線科 「松丸」 チーム
テーマ	**『勤務時間外の緊急を要する心臓カテーテル検査・治療の円滑化』**
チームリーダー	圓山　隆昭

今回の活動で急性心筋梗塞の患者に対して検査・治療が迅速に対応出来るようになり、とても良い活動だった。
今後は看護部の夜勤者で、今回トレーニング出来なかった人に参加してもらう事と、放射線科は今回作成した業務手順書を参考に新人教育を行っていきたい。

活動主体部署	**糖尿病センター** 「オリーブ」 チーム
テーマ	**『地中海食スコアを使って健康になる』**
チームリーダー	早川　かほる

地中海式健康和食の考え方を浸透させ、職員から患者への説明ができるようになり、地中海食を和食にとりいれることで、健康になれると多くの方々に知っていただけるようにこれからも啓発活動に努力をしていきたいと思います。

活動主体部署	**内視鏡センター**　「アップル」 チーム
テーマ	**『内視鏡件数増加にともなう検査体制の再構築』**
チームリーダー	喜多　哲史

今年はMQI活動の中で患者満足度調査を行ったが、高い評価を得られていたことはとても励みとなった。今後もその評価を裏切らないように、さらに高い評価を得られる内視鏡センターを目指し、活動を継続していく。

活動主体部署	**NST委員会**　「美食倶楽部」 チーム
テーマ	**『胃瘻造設・管理の体制再構築 －嚥下内視鏡検査評価(VE)の組み入れ－』**
チームリーダー	栗原　直人

胃瘻は経口摂取困難な患者に有用な栄養管理法ですが、老年学会の提言やマスコミ報道により減少傾向となりました。しかし、栄養療法としての価値は高く、今後見直される可能性は高いと思います。今回、多くの職員の意見や協力により使用しやすいパスに変更できました。今後も胃瘻に関連したテーマで活動を継続していきます。

活動主体部署	**看護部**　「オペ出しなんてこわくない！」 チーム
テーマ	**『術前準備の流れを見直す』**
チームリーダー	永利　由紀子　　発表者）坂井　奈穂子

術前準備の不明確であったことを看護業務マニュアルとして形に出来ました。手術の必要性とリスクを明確にした「手術・麻酔承諾書」の改訂と運用に取り掛かれたことはご指導いただいた皆様のおかげです。確実な運用を目指し、患者が安心して手術に臨めるように活動を継続していきたいと思います。

活動主体部署	**臨床検査科** 「花セレブ」 チーム
テーマ	**『インフルエンザ患者の動線の見直し』**
チームリーダー	中西　真奈美

今回の活動がインフルエンザ患者の診察までの待ち時間短縮や他の患者への感染の可能性を下げる事だけでなく、内科医師や外来職員の負担軽減に繋げることができてよかった。
今度は流行期以外のインフルエンザ患者の動線についても検討していきたい。

★　各チームからのコメント　★

活動主体部署	薬剤科 「SSI WARS ep2 ～周術期管理の覚醒～」 チーム
テーマ	『当院の周術期管理をエビデンスに基づき見直す』
チームリーダー	林　憲子

今年の薬剤科MQI活動は、各科医師や、手術室・病棟看護師との話し合いの中で「視点を変える」ことの連続であった。それぞれの視点から問題点抽出、原因追求、対策立案を行ったことで、実りのある結果を生んだと考えられる。残念ながら実施までに至らなかった対策もあり、今後も継続した活動と、新たな問題に取り組む努力が必要だと考えられる。

活動主体部署	健康医学センター 「かがやき1号」 チーム
テーマ	『ドック受診者数を増やす』
チームリーダー	三上　裕子

ドックの予約の曜日を増やしたことでとれやすくなりましたが、今後も予約のとれるまでの日数が延びていないか見直して、活動の改善を行いながら続けていきます。
レディースドックや新設ドックの広報を検討していきたいと思います。
今回の活動でご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

★　長時間に亘る審査を有難うございました　★

☆　審査員　☆

【審査員長】
柳川 達生
MQI
推進委員会
委員長

【審査員】
金内 幸子
MQI
推進委員会
副委員長

【審査員】
井上 聡
副院長

【審査員】
佐藤 松子
看護部長

【審査員】
岡本 安修
事務長

【審査員】
槙 孝悦
槙コンサルタント
オフィス
代表取締役

【審査員】
永井 庸次
ひたちなか
総合病院
院長

【審査員】
佐藤 正光
東京学芸大学
人文社会科学系
教授

【審査員】
藤田 茂
東邦大学
医学部
講師

★　各賞受賞チーム　★

院長賞
【オペ出しなんて
こわくない！】
（看護部）

努力賞
【美食倶楽部】（NST委員会）

優秀賞
【花セレブ】（臨床検査科）

最優秀賞
【SSI WARS ep2
～周術期管理の覚醒～】
（薬剤科）

★　お疲れ様でした　★

☆　座長　☆

第1部

大坪 弘子
看護師長

第2部

伊藤 鹿島
循環器内科医師

☆　会場全体　☆

☆　会場入口　☆

司会

時計係

☆　質疑発表者へのご褒美（GODIVAのチョコレート）☆

★　活動・発表大会を支えました　★

☆　MQI推進委員　☆

角田　近藤　中尾　橋本　黒田
高梨　田頭　柳川　金内　片岡　小林　小谷野　田村

☆　質疑応答　☆

★　発表も終わり、和やかな懇親会　★

～特別講演～「質重視の病院経営の実践　－医療の質向上活動の展開－」
(Total Quality Management)

理事長・病院長　飯田　修平

特別講演の機会を得たのは、第8回（演題名『練馬総合病院におけるMQI』）以来2度目です。演題名『質重視の病院経営の実践』は、「MQIは業務である、TQMの重要な要素である、医療は経営である、したがって、TQM/MQIは質重視の経営である」ことを再確認していただくためです。

構成の趣旨は、5W1H、五ゲン主義と全体最適です。5W1Hは順番が重要で、Whyが最初です。目的思考・志向です。原理・原則に基づいて、現場で現実に現物で業務を遂行します。全体最適には、同じ目的の達成にむけて一丸となり、着眼大局・着手小局が重要です。また、歴史的背景、時間軸を認識しなければなりません。統一主題「視点を変える」の意味がこれです。

「視点を変えて」活動し、MQI をMQI（MQI^2）することを求めました。しかし、「視点を変えた」、「MQI^2した」といえない活動もありました。このことに気づいていただく意図もありました。

経営の最重要事項は、理念の明示と徹底です。理念を設定し、定款、行動指針、就業規則に明記し、方針、戦略として提示しました。定款の目的と事業に、「安全で質の高い医療を提供するための科学的管理手法の研究開発・実践」、「医療安全・質の向上のための調査・研究・実践」すると明示したことの意味をご理解ください。

総合的質経営には段階があります。情報システムを構築し、情報を活用し、質を向上させ、信頼性を向上させ、安全を確保し、経営の質を向上させるという段階を踏まなければなりません。その基本となる活動が、MQIです。

医療の質向上（MQI）活動を実践するための組織を構築し、組織図に示しました。さらに、継続的に、組織を再編（再構築）しています。

MQI発足から、現在までの経緯を概説しました。紆余曲折を経て、推進体制、方策を改善しました。MQI活動は、推進委員、活動チームメンバーだけが実施しているのではありません。活動主体部署やメンバーは、一部を除いて、年度毎に交代で、実施することが重要です。メンバー以外も、間接的に協力していることに意義があります。

TQMのもう一つの要素であるプロジェクト活動を、MQI発表大会で報告していただいています。

新たな考え方と方法で、次の段階に進もうではありませんか。

第２０回ＭＱＩ発表大会に関する総論的感想

株式会社　槙コンサルタントオフィス　代表取締役　槙　孝悦 様

審査員の立場で参加しておりながら恐縮ですが、なぜ、20回目の発表大会で、「視点を変える」という統一テーマになったのか、その背景を理解しないまま、当日の審査に臨んでしまいました。

その結果、各チームの発表結果の目的・テーマ選定理由については、ほとんど差がない点数をつけてしまいましたが、第三者をも悩ませる練馬総合病院のMQI活動の真摯な取り組みは、守破離に通じるプロセスとも思え、新鮮な感動を覚えました。

私自身の消化不良の原因は、コンサルタントとしての経験から、MQI活動の要素の中に「視点の変化」は必然的に入っているものだと思い込んでいたからです。

飯田理事長は「紆余曲折があった。」と、柳川委員長は「20年の道のりは平坦ではありませんでした。」と述べられていましたが、20回目の発表大会で、あえて「視点を変える」という基本的な要素を抽出して統一テーマとされたことについて、MQI活動は、各現場で試行錯誤しながら、理論と現実のギャップを埋めていく地道な作業により、単年度の成果ではなく長期的な効果をめざすものであり、これからの10年、20年先に想いを寄せたものであったことに、今さらながら気づかされました。

金内さんは、薬剤業務は薬剤師だけで改善できず、関係者全員で取り組んできたが、さらに医局をはじめ他部署との協力関係が必要と述べられましたが、医療の質を向上させるために、言葉では当たり前のことを実際の取り組みにすることがいかに困難か再認識させられました。また、小谷野さんは事務系業務のMQI活動を振り返り、ターニングポイントがあったこと、そして日常業務としてMQI活動が受け継がれ、人が変わっても仕組みが残ることの重要性を指摘されていました。これも言葉にすると当たり前のことですが、大きくうなずかざるを得ない説得力がありました。

こうした当たり前の言葉が胸を打つのは、練馬総合病院にMQI活動が根づいており、且つ現状に甘んじることなく、さらに上をめざすという組織風土が確立されている証だと思います。

各発表に目を向けた場合、活動内容を十分まとめられたのか気になる点も見られましたが、これは統一テーマの難しさに起因するものであり、上位入賞チームは、目標設定の適格性、実施・実施経過等で差がついたように思います。結果会場から指摘があったように「字句の使い方にまで神経をめぐらすべき」という厳しい評価の目が待ち受ける当日まで、試行錯誤しながら活動を行われた全てのチームに心からエールを送りたいと思います。

医療を取り巻く環境がさまざまな制度改正の中で揺れ動き、移転新築で病院建物は変わり、職員の意識も患者の意識も変化していく中、「医療の質向上」という課題に果敢に挑戦されてきた練馬総合病院MQI活動20年の歴史は、日本の医療界にとっても貴重であり、継続されることを願ってやみません。

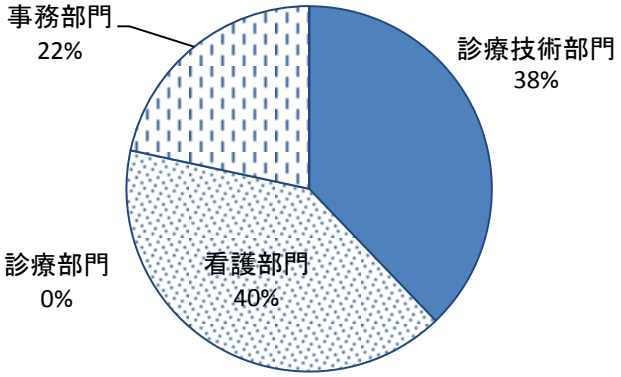
視点を変えて取り組んだ活動が今後の業務に活かされて迎える21回目の発表大会を、今から楽しみにしております。

審査員より各チームへ（一部抜粋）～良い点，改善点・ご意見など～

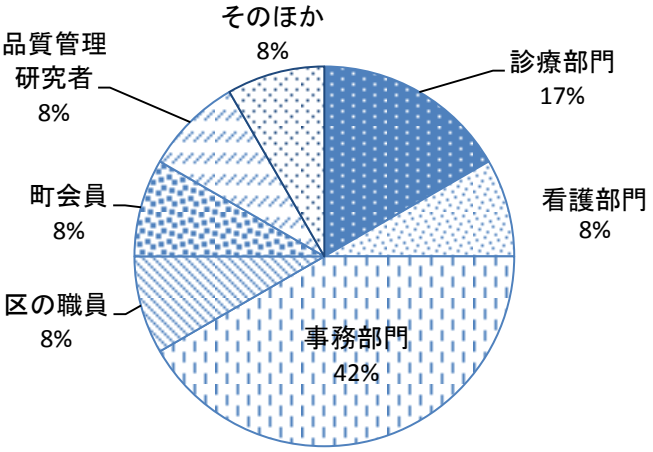
テーマ	良かった点	今後の課題と思われる点・ご意見・ご感想
① 放射線科 （緊急心カテ）	• 緊急心カテの職員への教育のポイントが明確になったことに大きな意義がある • 進捗が遅れて危ぶまれたが、最後まであきらめずに何とか結果を出そうとした	• 看護師のトレーニングが進んでいない • 今後の課題とした外来看護師の教育を必ず具体的に計画的に進めてほしい • 現状把握の層別化ができていない • 原因追求と対策立案の整合性が乏しい
② 糖尿病センター （地中海食）	• 「視点を変える」という点で、興味深いテーマ選択であり、今後の活動に期待が寄せられる発表であった • 食事改善は予防医学上の重要な事項であり着眼点がよい • 積極的な普及活動が院内外で行われていたこと	• 目標が「知る」ことに限定されていて考え方が狭い 対象の嗜好などへの配慮がない • 歯止めが「指導」ばかりで工夫が足りない • 特性要因図の活用ができていない • 職員にも普及させるならば、取り組みが中途半端
③ 内視鏡センター （検査体制の再構築）	• 効率を上げても患者の満足度を低下させないようにするという考え方はよい • 活動テーマと結果が分かりやすく、日常業務改善に貢献したことが伝わる発表であった	• データを集める時には目的を考える。データがでたらその意味を考えて対策立案へ結びつけるように考える • 現状−問題−原因−対策−効果　がつながっていない そのながれが分かりにくい • 今までの業務見直しでもできたのではないか • 何がよかったのか不明瞭
④ NST委員会 （胃瘻造設・管理）	• 胃瘻造設に対しての世の中の流れに対応できるように院内業務を整備した • 使われていなかった栄養パスが見直せたこと • 胃瘻造設に係る世間の位置づけが変化している中、その価値を検証するという視点は興味深い発表であった	• チームとしての活動が十分とはいえなかった • 医師のパス利用率を高めるための工夫が必要 • 症例が少ないため、実際の効果がわかりにくい • 目標に至るプロセスが不明 • 原因追求が甘い。何故こういう状態になったのか？不明
⑤ 看護部 （術前準備の流れ）	• 活動は遅れたが、指摘事項に関しては粘り強く検討しチームとして努力しているのが見えていた • 煩雑になりがちな術前書類統一の発想は良い • 形式的な運用になりがちな「承諾書」の運用をはじめ、術前の課題に誠実に取り組み、患者の不安軽減に取り組む姿勢にエールを送りたい	• 現状把握、原因追求のデータが混在していた。 データを集めるときの目的をよく考える • 組織横断チームの原則を考慮した場合、医師と看護師以外の参加がなかったのが気になった • 書類の改善のみに対策が限定されていて、医師との協力体制の構築の観点がない
⑥ 臨床検査科 （インフルエンザ患者の動線）	• インフルエンザ流行期前に患者の動線を整備した • MQI活動として簡潔・明瞭にまとまり、効果も分かりやすく、改善結果が日常業務に反映され、波及効果も期待できる発表であった • 院内感染と病院滞在の両方の改善につながるわかりやすく確実な取り組み	• 流行期に混乱することも考えられるので、運用を広く院内に周知し、定期的に運用状況を見直して下さい • 患者動線変更の実施には、医事課をはじめ他部門の理解・協力の徹底が必要ではないか • 他職種（特にNurse）との連携が不明確 • 他の感染症患者への応用は？
⑦ 薬剤科 （SSI）	• 14年以上更新してない周術期感染予防の仕組みに着手した点。異なる少なくとも5つの業務手順改善に着手し、いずれも方向をつけた • 手術上、重要な感染予防について、現状の確実な分析に基づき改善後の数値も明確で、対策が適確であったことが証明されている	• 一部対策実施にいたらなかった業務に関しては継続して下さい • 継続する為に薬剤師も手術室での状況も定期的に把握してもいいのではないか • 原因の原因が追求できていない ｛感染管理、手術室管理｝などの委員会活動不足
⑧ 健康医学センター （ドック受診者数）	• 人間ドックをリニューアルしようと取り組んだこと • 目標設定が切実であり、結果を出さなければならない活動を当事者意識を持って実施したことが伝わる発表であった • 現状を打破しようとする意識、意欲が感じられる	• 健診ニーズは多様化し、競合関係にさらされている。レディースドックに限らず、受診者の声を幅広く聞く必要があるのではないか • マーケティングが弱い、現状と対策の整合性が不足 • 受診者の満足度の向上とリピーターの増加についても検討すると良い

MQI発表大会アンケート集計結果　（回答数49名）

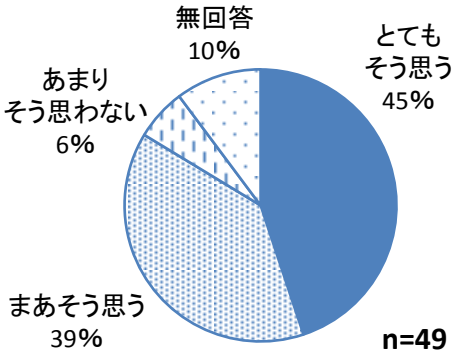
あなたの所属は？（当院職員）　n=37



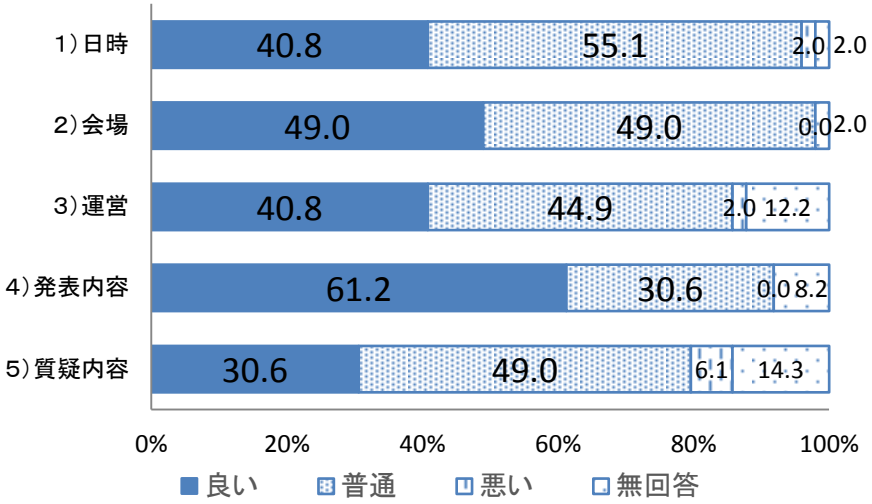
あなたの職業は？（当院以外）　n=12



発表大会に参加して良かったと思いますか？



発表大会についてお尋ねします　n=49



その他意見

【当院職員】

- 各部署が日頃困っていることと、それに対する対策が分かる。そこに自分の部署も関わっているのかもしれないと考えることができる。
- 限られた時間の中でわかりやすく説明できるよう、スライドが工夫されていてすごいと思った。
- 他職種と連携し、取り組みを行うのは大変難しいと思うが、それぞれの科の問題点を改善していくためには必要なことだと思うため、MQIはよい機会になると思いました。
- 発表大会における評価のみに終わらず、職員にとって利益のある活動とすることが必要。

【当院以外】

- ひとつのテーマに関して様々な視点から検討しており、非常に参考になった。
- 病院全体として質の向上活動に取り組みきれていることがよく分かりました。
- 毎回データを積み重ねられ、熱心に医療の質を高める活動されているのがわかる。
- やりがいやモチベーションを保ちつつ、取り組むテーマが病院方針と合っているかを確認しながら進めていく事が大切だと思う。 他･･･

推進委員会では、このようなご意見･ご感想を今後の活動に役立てたいと思います
ご協力ありがとうございました！！